

# 伊勢・三河湾貧酸素情報 (H28-10号)

平成28年8月4日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成28年8月1～3日に伊勢・三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しましたが、その結果は以下のとおりです。

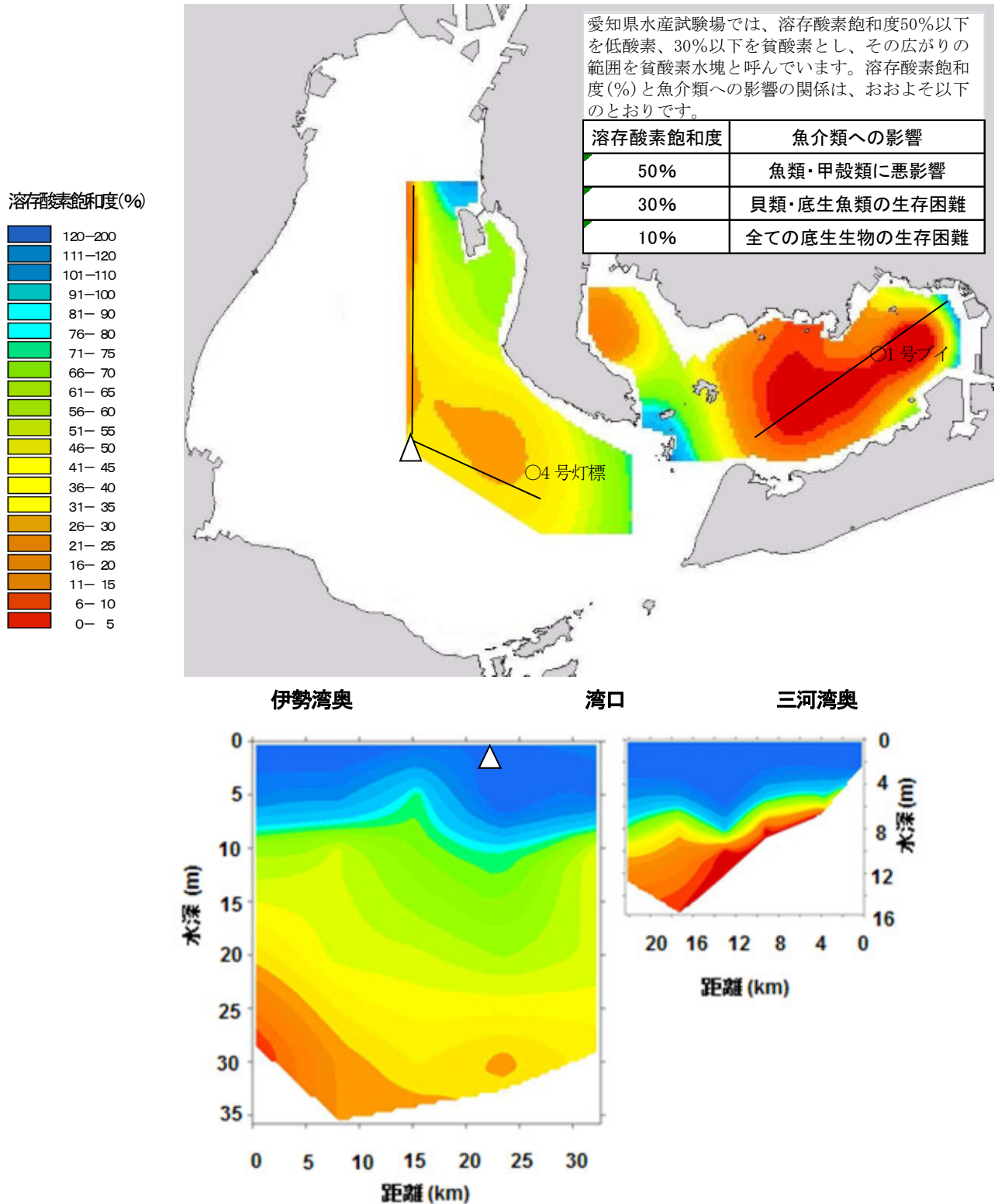


図1 伊勢湾 (8月1日)、三河湾 (8月2,3日) 底層の溶存酸素飽和度の分布 (上図) 及び上図直線部分の鉛直分布 (下図) (愛知県「へいわ」調査)

### 伊勢湾

8月1日の調査結果を図1に示しました。前回調査（7月26～28日）で貧酸素水塊が確認されなかった湾中央部でも確認されました（図1）。国交省中部地方整備局が所管している伊勢湾の水質モニタリングシステムの第4号灯標（内海沖）の海域では、中底層は溶存酸素飽和度が50パーセント前後で推移しており、貧酸素水塊は観測されていません（図3）。

今後は、表底層の密度差により、海水の上下混合が起きにくい状況が継続するため、貧酸素水塊は拡大すると考えられます。

	水温(°C)		塩分	
表層	26.3	～ 29.3	23.0	～ 31.5
底層	18.0	～ 26.1	28.1	～ 34.1

図2 調査時の水温、塩分

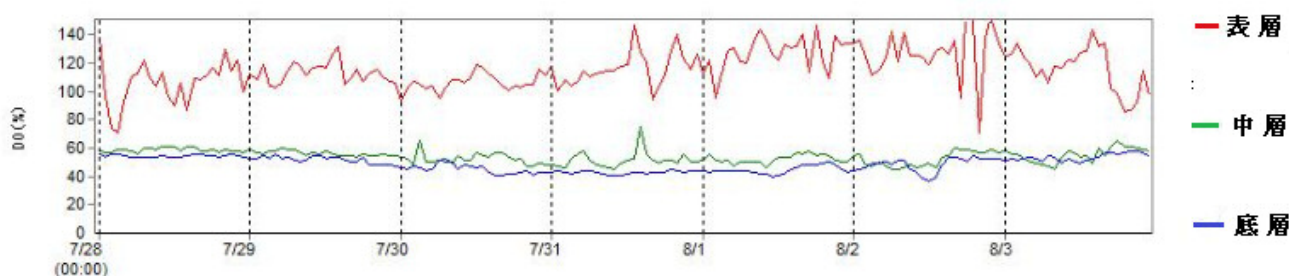


図3 伊勢湾モニタリングシステムの第4号灯標の溶存酸素飽和度の経時変化（中部地方整備局HPより）

### 三河湾

8月2、3日の調査結果を図1に示しました。前回調査（7月26日）と同様に渥美湾では広い範囲で貧酸素水塊が確認され、湾中央部を中心に溶存酸素飽和度が低くなっています。また、知多湾の一部でも貧酸素水塊が確認されました。

自動観測ブイ1号（蒲郡沖）のデータをみると、貧酸素化が進行し貧酸素の層が徐々に厚くなっている様子が観測されています（図5）。

現在は、表底層の水温較差が大きく躍層が生じている状況にあり、海水の上下混合が起きにくいことから今後は、さらに貧酸素化が進行すると考えられます。

	水温(°C)		塩分	
表層	28.4	～ 30.1	23.9	～ 30.5
底層	20.7	～ 24.9	31.4	～ 33.0

図4 調査時の水温・塩分

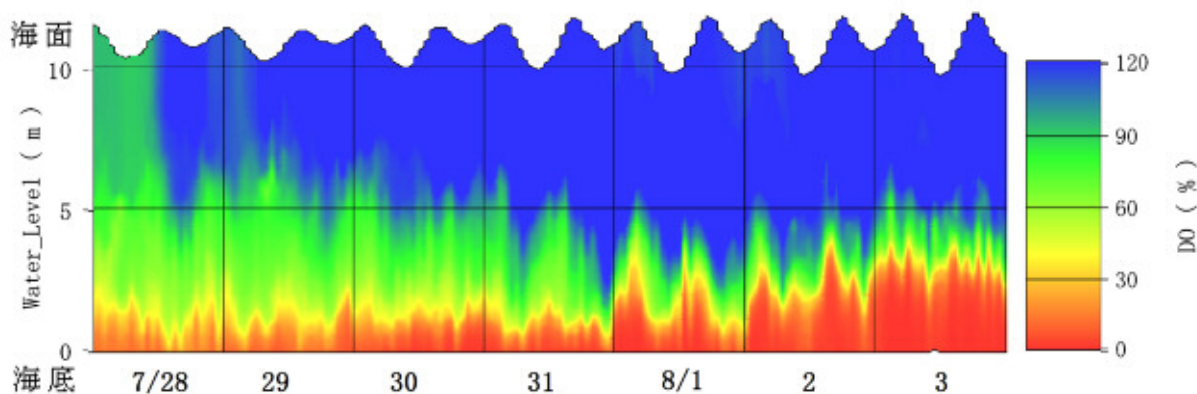


図5 溶存酸素飽和度（DO）の経時変化（自動観測ブイ1号）

## 参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

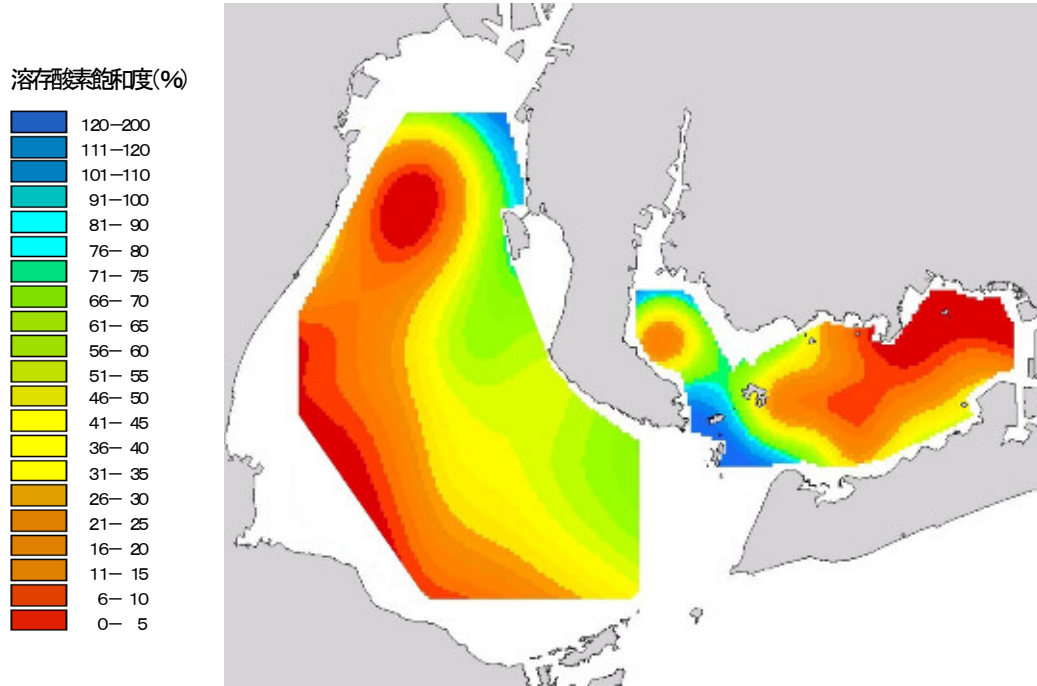


図6 平成28年7月26~28日(伊勢湾)、7月26日(三河湾)